

コしていることもよくみられ
ます。反対に、周囲の音がなく
静かになると不安そうな表情
になります。職員の声や物音
からその場の雰囲気を感じて
いるようです。

そこで、活動では、読み聞
かせを通して、絵本のお話の
雰囲気を感じられるよう、楽
しい場面や悲しい場面のある
本を提供しています。

『やさしいライオン』とい
う本では、読み始めはにこや
かに聞いているのですが、話
が進み、年寄りの犬とその犬
に育てられたライオンが離れ
離れになる場面で職員のトー
ンが悲しげになると、Aさん
も悲しそうな表情になってき
ました。最後までジッと聞い
ていて、「おしまい」と終っ
てもしばらく何かを思うよう
な表情をしていました。その
後に大きく「ハ」と息を吐き、
いつも通りの穏やかな表情と
なりました。絵本の世界を感
じてくれていたようで、Aさ
んにとつて、満足できる時間
となったようです。

Bさん(横地分類A2)は、
自分で姿勢を変えながら、周
囲の様子をよく見えています。
気になる物には、徐々に近づ
き、手を伸ばして触っている
こともあります。お椀を回し
て、それが止まるまでの動き

や、かばんなどから物が出
きてまた入れていく、という
ような、物が動いたり、形が
変わっていったりするものに
興味があるようです。



活動では、たまごパックに
ピンポン玉を入れていくこと
ろを見てもらいました。始め
はチラッと見る程度でしたが、
徐々に顔をあげて、職員のす
る事をよく見始めます。パッ
クに入った玉をもう半分の
パックの蓋に移し返すと、頭
を動かして、ピンポン玉を移
した蓋の方を見ていました。
ピンポン玉が違う所に移動し
たことが不思議なものでし
ょうか。今度は、パックにピン
ポン玉を1個ずつ入れていき、
最後の1個を入れる際、すぐ
に入れるのではなく、少し気
を持たせるような時間を空け
てみました。するとBさんは
頭をあげて、のぞき込むよう

にパックを見ていました。全
て入ると晴れ晴れとした、得
意気な表情をしていました。

ひかりの子の

日常生活紹介

幸田 沙織

児童発達支援センターひか
りの子(児童発達支援事業)
は現在2歳4ヶ月から6歳ま
での子どもたち34名が通園し
ています。

ひかりの子では、9時から
子どもたちを受け入れ、10時
から朝の会が始まります。朝
の会では、初めに「ひかりの
子ソング」を歌います。歌の
後は、「○○ちゃん、○○
ちゃんは元気ですか」と歌い
ながら、子どもの手を握りダ
ンスをするように優しく振っ
て、それぞれの子どものたち
の名前を呼んでいきます。

Aちゃんは通園当初、お母
さんから離れることで、泣け
てしまうことが続きました。
毎日ひかりの子に通い、同じ
時間に同じ歌を歌うことを続
けていきました。ある日、ピ
アノの音と「ひかりの子ソング」
が聞こえると、泣いていた表情
が、はつとして真顔になり、そ
の後、ふわあっと安心したよう
な笑顔になりました。その笑

顔を見て「そうだね。ひかりの
子が今から始まるね。たくさ
ん遊ぼうね。」と声をかけると、
また笑顔で返してくれました。
「ひかりの子ソング」を聞くこ
とで、何か楽しい時間になる
ことを感じられた瞬間だと思
いました。母親から離れて過
ごしたことのないAちゃんが、
家庭の他に楽しいと感じられ
る場所を見つけることができ
成長を感じました。

Aちゃんだけでなく、繰り返
返していくことで、子どもた
ちはそのメロディライン、抑
揚を聴き馴染むようです。
「家でもひかりの子ソングを
歌うと泣きやみますよ」とい
うお話をよく聞きます。



朝の会が終わると「遊び」
の時間になります。ひかりの
子では「紙」「ボール」「音」
「絵本」の4つの遊びを3ヶ
月ごとに行っています。同じ

遊びをじっくりと繰り返して
いくことで、子どもが遊びを
楽しいと思うようになり、表
情や体の動きに変化が出てき
ます。

B君の紙遊びの様子を紹介
します。3歳の頃のB君は、
真ん中に大きな穴を開けた新
聞紙を見せると、クッション
チェアに座った姿勢で、ゆっ
くりと片手を伸ばしました。
穴に手を通し、手の動きで下
に向けてビリビリビリッと
破っていききました。4歳にな
ると職員の持つているお花紙
を力強く引っ張るようになり
ました。引っ張って破れたお
花紙を両手でクシャクシャと
揉むように触り、目を輝かせ
ヒラヒラと片手で持つて腕を
上に上げます。遊びを続けて
いくことで、同じ動きでも力
がより入るようになって、片
手だけでなく両手を伸ばし
たりと、B君の動きに変化が
生まれました。

子どもは遊びの中で発達し
ていくと思います。子どもた
ちが遊びを楽しんでいるよう
に、その子の発達状況
に合わせた遊びを提供してい
ます。

